

炭殻の山

芸術研究科 造形表現専攻 写真・映像領域 博士前期課程
2022年3月修了

賈世超

主査 百瀬俊哉 副査 大日方欣一 佐藤慈

作品制作の背景

1990年代に入ると、中国で多くの国有工場の効率が低下し、各企業はリストラを大量に行う「リストラブーム」を引き起こした。現在“レイオフ”と呼ばれる特殊な時期から約20年が経過しているが、この時代を経験した人々が受けた影響は今も続いている。そして、その傷や輝きはこの地に跡を残している。それらの痕跡を記録しました。

作品の解説

この作品の主な撮影シーンには廃工場、かつて工場が建設された労働者用団地と工場周辺の風景です。これらの環境の写真からは、その歴史を経験した人の現在の生活状態や精神状態を映し出すことができます。すでにこれらの光景には埃が積もっていますが、時代の埃は時間が経つと、山になるかも知れません。過去にあった特殊な時代が、未来にどのように影響を与えるのかを考えながら制作しました。



指導教員コメント

作者の地元の廃れた工場や団地などから、時代の痕跡を残しているものを中心に撮影している。炭鉱関連施設を中心とした現在の様子をはじめ、街全体から自らが興味を持った被写体を捉えている。旧産炭地特有の街の表情を再発見しようとする姿勢と、街を客観的に記録する意識とが介在しており、独自の視点による表現で、現在の土地の様子を丹念に捉えたこれらの作品は評価することができる。

百瀬俊哉